

博士課程教育リーディングプログラム 平成27年度プログラム実施状況報告書

| | | | |
|--------|------------------|----------------|-------|
| 採択年度 | 平成24年度 | | |
| 申請大学名 | 九州大学 | 申請大学長名 | 久保 千春 |
| 申請類型 | 複合領域型（環境） | プログラム責任者名 | 原田 明 |
| 整理番号 | H02 | プログラムコーディネーター名 | 谷本 潤 |
| プログラム名 | グリーンアジア国際戦略プログラム | | |

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本事業の目的は、グリーン化と経済成長を両立したアジア（グリーンアジア）の実現に資する理工系リーダーの養成にある。資源消費の飛躍的削減と経済成長との両立は、人類社会の課題である。そして、アジアは、文化・社会的な多様性を内包し、経済成長と環境問題との相互矛盾を抱えつつも、活力あるメルティングポット状態となって発展しつつある典型的なモデル地区としての意味を有する。経済成長と資源利用効率向上の両立という人類が経験したことのない困難な課題を解決するため、産官学連携・国際協働の下、3つの学術分野〔物質材料科学・システム工学・資源工学〕のいずれかを専門とし、自身の専門プラス他の2専門分野、および3分野の総体としての環境学、加えて理工学を支えるためのアジア・オセアニア諸国の社会学・経済学の基礎を複合的に修得、さらに、国内外の実践経験を積み、理工系リーダーとなるに相応しい5つの力〔研究力・実践力・俯瞰力・国際力・牽引力〕を獲得、かつアジア人材ネットワークを有する人材の育成を行う。

九州大学は、教育憲章や学術憲章に示されるように、教育においては、世界の人々から支持される高等教育を推進し、広く世界において指導的な役割を果たし活躍する人材を輩出し、世界の発展に貢献することを目指している。研究においては、人類が長きにわたって遂行してきた真理探求とそこに結実した人間的叡知を尊び、これを将来に伝えてゆくとともに、諸々の学問における伝統を基盤として新しい展望を開き、世界に誇り得る先進的な知的成果を産み出してゆくことを自らの使命として定めている。このためには、自由闊達な発想と洞察をもって、常に高みを目指し、新しい地平を切り開いてゆく絶えざる挑戦が求められるが、平成7年に独自に「改革の大綱案」を策定し、学府・研究院制度を始めとする構造的な改革に取り組んできている。平成16年度の法人化以降は、明確な目標・計画を掲げ、総長のリーダーシップの下で、様々な大事業や大改革が進められている。改革の具体的内容は次の8点に集約される：1) 博士・修士・学士課程教育の系統性：学士・修士一貫と博士一貫の併存、2) 教育組織と研究組織の分離と管理運営システム：研究科・系教育と研究院の分離と連携、3) COE 構築のための柔軟な協力システム、4) 柔軟で開かれた系の教育システム、5) 研究科と系の再編、6) 附置研究所・附属研究施設等の改革、7) 社会との連携の強化、8) 国際的連携の強化。それぞれが本プログラムに深く関わっているが、特に本プログラムは学内の4つの専攻を中心に、6つの研究院、2つの附置研究所、1つの研究機構、新規開設を含む4つの教育・研究センターの協力の下、文理協働・社会連携・国際連携の推進を掲げ、5年一貫の新しいタイプの博士課程教育システムの構築を目指すものとなっている。

（機関名：九州大学 類型（領域）：複合領域型（環境） プログラム名称：グリーンアジア国際戦略プログラム）

2. プログラムの進捗状況

採択後4年度目にあたる平成27年度の計画は、初年度に整備されたシステムに沿って順調に実施された。具体的には以下の通り。

(1) 運営体制の整備：

①プログラム運営主体のグリーンアジア国際リーダー教育センターにて、特定プロジェクト教員10名、テクニカルスタッフ7名、事務補佐員5名を雇用した。②各種委員会およびワーキンググループ(WG)を組織し、プログラムの機動的運営を図った。これら委員会等メンバーも含めた拡大運営委員会を月1回、学務委員会を月2回平均で開催した。なお、拡大運営委員会および学務関係の委員会は英語により実施した。

(2) 教育プログラムの実施と整備：

①第4期生の選抜試験を実施し、13名(国内3名、海外10名)を受け入れた。また、留学生の応募を容易にするため、Webを活用した募集方式に加え、Web上で受験できるシステムを新たに導入し、第4期の留学生募集・スクリーニングを進めた。②理工系、人文社会系の講義、実践英語、国際演習、実践産業科目等を手配、開講した。人文社会系科目に関しては、特定プロジェクト教員による講義を整備、本学大学院共通講義を活用、また非常勤講師を手配して集中講義形式でも実施した。③第3・4期生等対象のプラクティススクール、第3期生および第4期生等の研究室ローテーション、第1・2期生の海外長期および国内インターンシップを手配、実施した。④全学年を対象に国内短期実習(新日鐵住金㈱・トヨタ自動車㈱)及び海外短期実習(韓国・延世大学校)を実施した。⑤グリーンアジア国際セミナーを開催するとともに、「グリーンアジア学生フォーラム」を併設して学生討論を実施した。⑥コース生を対象とした小セミナー(アフタヌーンコロキウム)を計12回開催した。⑦第2回統合創・省・基盤技術エネルギー教育研究拠点シンポジウム等、共催イベントを実施した。⑧第2期の留学生および第3期の国内選抜学生に対する博士研究開始資格認定審査(QE)、第2期生に対する研究レビュー・提案審査、第1期生に対する博士研究中間報告審査を実施した。⑨コース生の成績の管理等の方法を整備した。

(3) 連携体制の整備、連携企画の実施：

①11月に第5回国際アドバイザーボード会議を開催し、国際連携先と今後の進め方等に関して協議を行った。②国際連携先、国内企業連携先を訪問し、昨年度の実施報告をするとともに今後の進め方等に関して個別協議を行った。③海外コア連携大学の一つであるダッカ大学の学長を招聘し、バンガラデシュ日本国際工科院の設立に向けて協力していくことで一致した。④留学生のリクルーティング、スクリーニングのため、既に実施していた1)欧米の留学プログラム検索サイトへの有料広告掲載、2)Webでの出願プロセスのほか、3)Web受験システムを新たに導入し、従来の国内大学院には見られない枠組みをさらに充実させた。波及効果として、上記1)及び2)の手法は、本プログラムの主たる運営母体である総合理工学府博士後期課程の文科省留学生優先配置プログラム(Brain Circulation—アカデミック育成のためのグリーン理工学国際コース/Intellectual Exchanges and Innovation Program; H26-30採択)で適用されている。

(4) 広報活動：

①パンフレット(簡易日本語版、日本語版、簡易英語版、英語版)を作成し、各所に配布した。②学内に向けた入試説明会を複数回実施した。③ホームページ(日本語版、英語版)で情報発信を行うとともに、プログラムのFacebookを開設した。Web上に履修登録システムや、学生が匿名で意見や質問を投稿できるメッセージボードを設置した。④ニューズレター及び環境関連総合誌EVERGREENを企画編集し、発行した。⑤グリーンレクチャーブックシリーズ(英語版教科書)を出版した。⑥九州大学ガイドブック、九州大学ホームページ、リーディング大学院プログラム紹介冊子、リーディングフォーラム2015、同志社大学・広島大学のリーディングプログラムとの合同研修等、機会をとらえて本プログラム内容を広報した。